

笑いを楽しむ

< 笑いを創ってみよう! >



講義日 2026年2月6日(金曜日)

講師 鹿島我先生 京都光華女子大学 短期大学部教授 放送作家
著書「新野新で語る大阪放送界史 小バラ色の人生」

【講義】

笑いはリズム: 7音・5音を使えば色々な笑いが生まれる

1, 都々逸

江戸末期に流行した、七、七、七、五、26音

男女の情愛や風刺を粋に表した。

短い文字数の中に喜怒哀楽を凝縮した粋な表現

*跡がつくほど つねっておくれ 後でのろけの 種にする

*僕の気持ちは バラツクの屋根 瓦ない(変わらない)

*かわいそうだな、ズボンのおなら 右と左に 泣き別れ

2, 狂歌

平安時代からすでに詠んでした

江戸時代に大流行

表だつては言えないことを詠む

*泰平の眠りを覚ます上喜撰 たつた四杯で夜も眠られず

(1853年ペリー来航による幕府の狼狽ぶりを比喻した有名な狂歌)

*白河の清きに魚も住みかねてもとの濁りの田沼恋しき

*世の中に寝るほど楽はなかりけり浮き世の馬鹿は起きて働く

3, 川柳

五、七、五 の17音で人情、社会風刺、日常の出来事を話し言葉で詠む

*5時起床、7時散歩、9時昼寝

*免許より、夫返納したい妻

4, 7・5調の歌: 童謡に多い

*どんぐりコロコロ

*もしもしカメよ

*浦島太郎

*お山の杉の子

*水戸黄門(オープニング、ああ人生に涙あり)

*青春時代

これらはメロディが同じで、歌詞を変えて歌うことができる。おもしろい。

笑いは、コミュニケーション

・大阪は、初対面の人でも阪神の話でコミュニケーションがとれる

・笑いはコミュニケーションがないと成立しない

漫才:ボケとツッコミのコミュニケーション

落語:ご隠居さん(賢こ)と丁稚(あほ)…賢ことあほのコミュニケーション

更に演者は客とコミュニケーションを取ることで笑いが起きる。

マクラは客との距離を測るコミュニケーション

・漫才には、ネタを進行している人(ストーリーテラ)がいる

コンビ名を考えよう

2人が通っていた中学校の外国人教師の名前から⇒ダイアン

2人が憧れていたが、入学出来なかった岡山県笠岡高校の校章から⇒千鳥

2人が同じ埼玉県原市出身だから⇒ハライチ

2人とも大阪 NSC 9 期生⇒ナイティンナイン

★二人一組で漫才コンビ名を考えて、M1グランプリの登場曲に合わせて前に出て発表しました。

*プレーガールズ *あずき娘 *多病気天国 *コーカラもてもて *ハッツ *インセクト(虫)ブラザーズ

*イースト&ウエスト *鉄分トリーズ

2人話し合っコンビ名を決めることも楽しかったです。

☆午後は、各班毎に学習成果発表会の準備をしました。

(2班広報担当)

